

短編「手紙」



20230829



エリー



目次

短編	1
----------	---

短編

1、はじめ

わたしの名前はアガール。魔女をしている。

3歳でまたがったほうきがふわりと飛び、魔女の才能を認められた。

7歳でエルメダーラ王国の王都に、魔女修行に行く。

それから薬草の使い方を学び、会計や経営を学び、体を鍛えて、故郷の村で運営にたずさわるため、邁進してきた。

自分で言うのもなんだが、かなり優秀で、将来を期待されている。

16歳の誕生日に、上司から呼ばれたとき、自慢に思わなかったと言ったら、嘘になる。褒められる気で訪ねると、1通の手紙を渡された。

「この手紙をサンサリーンに届けてほしい」

得たいの知れない頼みに、一瞬、躊躇する。

すぐに「聖地に行けるのだから」と引き受ける。

けれども上司はまた不穏なことを言う。

「全財産をもっていくといい。これまでの給金を精算する」

上司から66万ミミの現金を渡される。

「宿代も込みだ。その金をもって明日の朝、ほうきで旅立つといい。夜には港町につくだろう。そこで一泊して、海を越えてサンサリーンに飛べば2日で行く」

動揺しつつも、わたしは了解して、言葉通り旅立った。

2、港町

港町につくと夜の6時頃で暗い。

町の入り口でほうきから降りて、農地を歩いていると、ランプの灯る農家がある。

ランプの下には看板がある。

泊られます

魔女、魔法使い歓迎

卵料理が自慢の宿コッコ

とあった。

わたしは迷わず、扉を開ける。

トマト味のご飯を卵で包んだ「オムライス」と呼ばれる食べ物を初めて食べた。

甘酸っぱく、まろやかで、本当に美味しい。

ずっと泊まっていたくなる。

しかしわたしには手紙を届ける使命がある。

弱い心を叱りつけ、眠りについた。

3、訪問者

夢の中でグリーンさまが「選びなさい」と話されている。

「なにを？」と不思議に思いつつ、目覚めると、足元に青年が立っている。

わたしの悲鳴に、鶏の鳴き声が重なる。

「驚かないで。話を聞いてください」

危害を加える気はなさそうなので、とりあえず話を聞くことにする。

うなずくと話し出した。

「わたしの友人が事業で失敗してスラムにいます。彼を助けるためにあなたのお金をくれませんか？」

勝手な言い分に腹が立ったが、理由が気になる。

「なぜ？」

「王都から手紙を渡されてサンサリーンに行くのでしょうか。ならば転送士に選ばれたのです。二度とサンサリーンから出られない。もうお金は必要ありません。だからわたしの友を助けてください」

初めて聞く転送士の話に驚きが隠せない。

「転送士とは？」

「聖なる山の地下にある秘密の魔方陣から、人や物を精神世界に運ぶ人たちの名前です。彼らは……」

言いづらそうな青年に話を促す。

「続きを話して」

「わたしたちの平均寿命は50歳ですが、転送士は30歳まで生きられないと言われていきます。心身を酷使するからです。しかし、太陽系が減んでも、精神世界は残ると言われています。意義のある仕事です。しかし逃げるなら手伝います」

金をわたすか？

サンサリーンに行くか？

大きすぎる二つの決断に悩んだ。

金を集めてくれる友がいる人物なら、支援してあげてもよい。

しかし、この青年が嘘をついているなら？

わたしは青年をじっと見つめた。

強盗として、つき出されても文句は言えない状況で、わたしを気遣う余裕がる。
不敵な顔だ。
面構えが気に入った。
6万残して、60万ミミを青年に渡す。
「俺の話信じてくれてありがとう。魔女さまにグリーンさまの祝福あれ！」
青年は去り、わたしは島へ向かった。

4、サンサリーン

島に着くと聖地の地下に案内された。
青年の話は真実だった。
光に当たってないためか、みんな顔が青白い。そして若い。
一番奥の部屋に通され、黒いローブの男性に面会する。
「その顔は、事情を知っているね。手紙を読むといい」
わたしは手紙を開いた。
この者を転送士に推す
運んできた毒を飲まされた気分だ。
「わたしたちの仲間になるか？」
わたしの夢は、故郷を栄えさせること。こんなところで死にたくない。
わたしは首を横に振った。
「ならば忘れるがよい。ここのことは語ってはいけない。守れるな？」
「はい」
わたしは島を去り、王都に戻った。

5、エンディング

魔女修行を終えたわたしは、希望通り故郷の村を支える一員になった。
転送士については、誰にも語らず、秘密を守った。
しかし死ぬまで存在を忘れたことはない。
そして、村で育った若者が、街に出て借金を背負い、スラムに落ちる度に、友のために金を求めた青年の気持ちが分かった。
あの時、金を渡して、後悔はない。

短編「手紙」20230829

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
